

## 萩小学校複式編制回避に関する住民説明会

### 1. 会議概要

	第1回	第2回
開催日時	令和5年4月15日 13時30分から	令和5年4月24日 19時から
開催場所	萩小学校 体育館	萩地区市民館
説明者	○ 検討委員会 委員長 副委員長  ○ 事務局（教育委員会庶務課）	○ 検討委員会 委員長 副委員長  ○ 事務局（教育委員会庶務課）
参加者	萩地区住民 63名 その他 4名	萩地区住民 16名

### 2. 会議内容

#### (1) 複式編制回避検討委員会委員長挨拶

- ・私も萩小学校の卒業生である。当時120名いたが、現在は全校児童55名であり、随分少なくなった。
- ・町内会を通じて、複式編制回避について情報を発信しているところだが、まだまだ地域住民に浸透していない点があるため、今回の説明会を開催する。

#### (2) 教育委員会次長挨拶

##### 《今回の説明会に至る経緯について》

- ・豊川市は、令和2年の国勢調査で、東三河8市町村中で唯一人口が増えているが、子どもの出生数に着目すると、令和4年度に豊川市の小学校に入学した平成27年度生まれの子どもの数は1,697人、令和10年度に入学予定の令和3年度生まれの子どもの数は1,376人と、6年間で321人減少している。（年間に換算すると、毎年50人以上減少）
- ・このような状況の中、愛知県の学級編制の基準に当てはめると、萩小学校は、数年後には複式学級を編制しなければならない状況となる見込みとなる。
- ・昨年度から、町内会役員や小学校・保育園の保護者代表などで組織する萩小学校複式編制回避

検討委員会を立ち上げ、対応策について検討を進めてきた。

- ・今後アンケートを実施予定だが、住民の皆様には、萩小学校の児童数の現状や今後の見通し、また、複式学級を回避するための取組は具体的にどのようなものがあるのかなど、十分に理解して、アンケートにご回答いただきたいと考え、今回の住民説明会を開催した。
- ・アンケート調査は、平成26年度にも小学校と保育園の保護者を対象に世帯単位でご回答をいただいた実績もあるが、今回は、保護者を始め、15歳以上の地域住民の皆様、そして、小学5・6年生や中学生も対象に、世帯単位ではなく、一人ひとりからご回答を頂き、今後の方向性検討の参考とさせていただきたい。

### (3) 萩小学校の複式編制（学級）回避への取組みについて説明

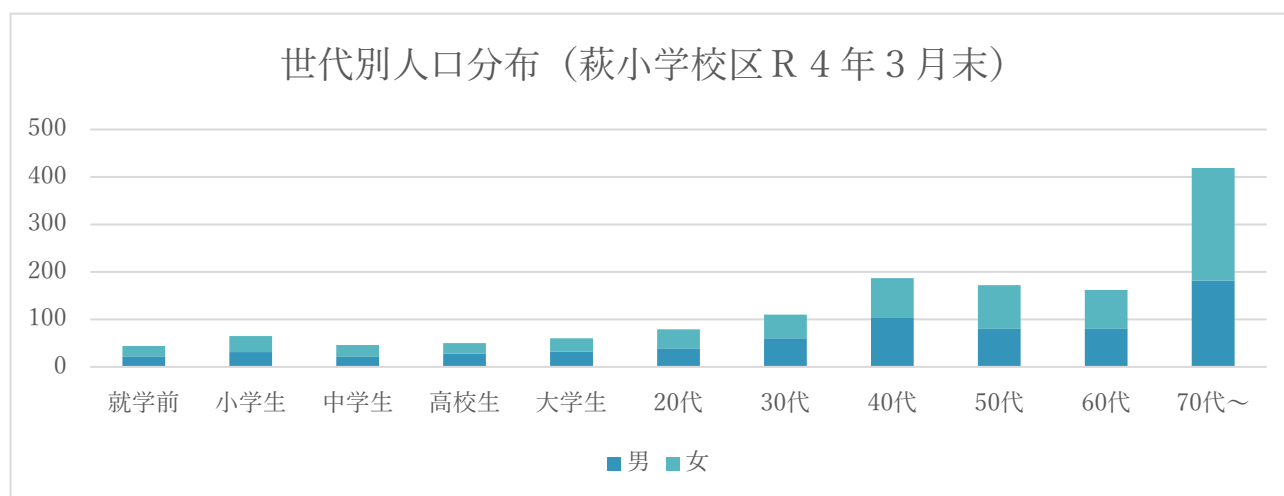
#### 1. はじめに

豊川市の児童生徒数は、昭和30年代に最初のピークを迎え、その後いったん減少したが、高度経済成長を背景に再び増加に転じ、昭和55年から昭和60年にかけて2度目のピークを迎えた。このピークを最後に、少子化の進行に伴い減少傾向が続いている。

このような流れの中、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力、切磋琢磨しながら、思考力や表現力、判断力などを育ていけるような学校規模を維持していく視点が重要と捉え、平成31年3月に「豊川市立小中学校の規模に関する基本方針」を定め、この基本方針の中で、豊川市では複式編制（2学年が1クラスになること）を回避するということを基本的な考え方としている。

萩小学校は今後、このままの人口推計と愛知県の学級編制基準に照らし合わせると、令和10年度に3、4年生、令和12年度には5、6年生が複式学級となる見込みである。

## 2. 萩小学校区の人口分布について



グラフでは、若い世代の人口分布を、就学前や小学生と、細かく表示している。  
他の世代と同じように10歳ごとの人数とした場合は以下のとおり。

**～9歳：72人 / 10代：151人 / 20代：121人**

10代、20代は他の世代と同じように、100人以上だが、9歳以下は他の世代に比べて少なくなっている。

### 3. 萩小学校の児童数について

○令和4年度（6クラス）

		1年生（H27生まれ）		2年生（H26生まれ）		3年生（H25生まれ）		4年生（H24生まれ）		5年生（H23生まれ）		6年生（H22生まれ）		合計																																																									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
男	●●●	3	●●●●●●	6	●●●●●	5	●●●●●	4	●●●●	4	●●●●●	4	●●●●●●	6	●●●●●●●	9	●●●●●●●	7	●●●●●●●	10	●●●●●●●	11	●●●●●●●	13	男	26																																													
女	○○	2	○○○○○○○	7	○○○○○	5	○○○○○	2	○○	7	○○○○○○○	9	○○○○○○○○○	13	○○○○○○○○○	10	○○○○○○○○○	9	○○○○○○○○○	10	○○○○○○○○○	11	○○○○○○○○○	13	女	32																																													
		5		13		10		6		11		13		58																																																									



○令和10年度（見込み）（5クラス）

		1年生（R3生まれ）		2年生（R2生まれ）		3年生（R1生まれ）		4年生（H30生まれ）		5年生（H29生まれ）		6年生（H28生まれ）		合計																											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
男	●●●	3	●●●●●	4	●●●●	3	●	1	●●	2	●●●●●●	6	男	19																											
女	○○○○	4	○○○	3	○	1	○○○	3	○○○○○	5	○○○○○●	4	女	20																											
		7		7		4		4		7		10	合計	39																											

上段の表は令和4年度の萩小学校児童数（6学年合わせた児童数は58人）  
 下段の表は令和10年度の萩小学校の見込み児童数（6学年合わせた児童数は39人）

⇒学年によって男女の人数に差が生じている。

※平成30年度生まれは男の子が1人、令和元年度生まれの子どもは、女の子が1人。

○令和10年度（見込み）（5クラス）

		1年生（R3生まれ）		2年生（R2生まれ）		3年生（R1生まれ）		4年生（H30生まれ）		5年生（H29生まれ）		6年生（H28生まれ）		合計																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
男	●●●	3	●●●●●	4	●●●●	3	●	1	●●	2	●●●●●●	6	男	19																	
女	○○○○	4	○○○	3	○	1	○○○	3	○○○○○	5	○○○○○●	4	女	20																	
		7		7		4		4		7		10	合計	39																	



隣り合う二学年の合計人数が14人以下

このままの人数で推移した場合、令和10年度には萩小学校に通う3年生と4年生の合計が8人となる。2学年の児童数の合計が14人以下で推移し続ける場合は複式編制という基準に基づき、複式学級になる見込みである。

なお、子どもの人数は現在での状況となるため、今後、転居等により子どもの人数が増えれば、複式学級にならない可能性もあるが、逆に人数が減ると、令和10年よりも前に複式学級になる可能性がある。（愛知県の基準は、普通学級での基準であるため、特別支援学級に通う子どもがいると、人数が減った場合と同じ状況になる）



# 《音羽中学校》

○令和4年度（9クラス）

1年生（H21生まれ）		2年生（H20生まれ）		3年生（H19生まれ）		合計																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	男	女	合計	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	57	43	45	145
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	43	46	44	133
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	100	89	89	278



○令和10年度（見込み）（6クラス）

1年生（H27生まれ）		2年生（H26生まれ）		3年生（H25生まれ）		合計																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	男	女	合計	
☆	☆	☆	●	●	●	●	●	●	●	●	☆	☆	☆	☆	☆	●	●	●	●	●	●	☆	☆	☆	☆	☆	●	●	●	●	●	●	26	26	35	87
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	34	29	32	95
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	60	55	67	182

萩小学校から進学予定の  
子どもは（☆/★）印

## 音羽中学校の生徒数

令和 4年度の全校児童数 : 278人 : 全9クラス

令和10年度の見込み全校児童数 : 182人 : 全6クラス (▲96人)

## 5. 小規模校のメリット・デメリット

小規模校（1学年1クラス：萩小学校、長沢小学校、千両小学校、一宮南部小学校が該当）について、一般的に以下のようなメリット・デメリットがあると言われている。

### メリット

- ・一人ひとりの学習状況や定着状況を的確に把握できる
- ・補充指導や個別指導を含めた、きめ細かな指導を行いやすい
- ・意見や感想を発表できる機会が多くなる

### デメリット

- ・クラス替えができない
- ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動の機会が少ない
- ・経験年数や男女比などバランスのとれた教職員配置や、それらを生かした指導の充実が困難

## 6. 複式学級のメリット・デメリットと豊川市の方向性

複式学級については、以下のようなメリット・デメリットがあると言われている。

### メリット

- ・教職員が複数学年を行き来する間、児童が相互に学び合う活動を充実できる
- ・異年齢の学習活動を組みやすい

### デメリット

- ・教職員が複数学年を行き来しながら、直接指導と間接指導を組み合わせて授業を行うこととなるため、児童の集中力が途切れやすい
- ・単式学級と比較して直接指導の時間が少ない

豊川市では、このメリット・デメリットについて検討し、平成31年3月に策定した「豊川市立小中学校の規模に関する基本方針」において、市内児童生徒の学校教育の機会均等や、学校教育水準の維持・向上のため、複式編制を回避することとしている。



## 7. 複式編制を回避するための4つの取組み

複式編制を回避するため、以下の4つの取組みが考えられる。

### ①学校統合

- 児童生徒数が減少している学校を隣接する学校と統合（既存校に吸収、若しくは新設）し、学校規模を維持するための取組み
- 萩小学校の場合、赤坂小学校との統合が考えられるが、通学区域が広がるため、スクールバスの検討や学校跡地利用の検討も必要

### ②通学区域の見直し

- 隣接する学区の一部を編入し、通学区域を拡大する等の取組み
- 萩小学校の場合、赤坂小学校区が候補となるが、赤坂小学校自体も大規模学校ではないため、難しい

### ③学校選択制の導入

- 就学する子どもや保護者が学校を選べるようにする取組み
- 特色ある学校に対し、市内どこからでも就学を認める「特認校制」は、小規模校対策として取り入れている自治体も多い
- ただし、一般的な通学団登校が出来ないため、保護者による送迎が前提となる。また、居住する地域での友人関係が希薄になる傾向がある
- 入学希望者が僅かしかなく、成果があげられない可能性がある

### ④関連する取組みとして小中一貫教育

- 9年間を通じた教育課程を編成し、統計的な教育を目指す取組み
- 小規模校対策を目的とした制度ではないが、小中学校段階を一体的に捉え、一定の児童生徒数を確保できる取組みではある
- 施設一体型の小中一貫教育とした場合、施設を新設する必要があり、実現までの費用や期間、中学校区の調整等、課題も多い

① 「学校統合」…隣接する学校と統合し、学校規模を維持する

《課題/検討事項》

- ・通学区域が広がることによるスクールバスの導入
- ・学校跡地の利用・活用

② 「通学区域の見直し」…隣接する校区の一部を編入し、通学区域を拡大する

《課題/検討事項》

- ・候補となる赤坂小学校も大規模校ではないため、現実的とは言えない

③ 「学校選択制の導入」…子どもや保護者が入学する学校を選べるようにする

《課題/検討事項》

- ・一般的な通学団登校が出来ないため、保護者による送迎が前提
- ・居住する地域での友人関係が希薄になる傾向がある
- ・入学希望者が少ない可能性もあり、児童数が確実に増えるとはいえない

④ 「関連する取組として小中一貫校」…9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す

《課題/検討事項》

- ・施設一体型の小中一貫教育とした場合、施設を新設する必要があるため、実現までに時間と費用がかかる
- ・中学校区の調整は必要

豊川市では、この4つの取組を段階的に実施することも念頭におきながら、萩地区住民の十分な理解と協力を得ながら協議していくこととしている。

参考資料

- 複式編制回避に向けた具体的な取組について
- 「豊川市立萩小学校複式編制回避検討委員会」の設置経緯や、構成員、開催状況

#### (4) - 1 質疑応答 (4月15日)

**【参加者 A】** 複式編制の授業の様子というのが、イメージが湧かないため、説明して欲しい。

**【事務局】** 2つの学年で1クラスになるので、担任の先生が1人ということになる。クラスも1つの教室で、3年生も4年生も同じ教室にいて、先生が、3年生の授業をやっているうちは、4年生は自主学習（直接指導せず）になると思う。

**【参加者 B】** 5月に取るアンケートというのは、萩小学校の廃校を前提としたアンケートなのか。地域住民には、学校が無くなるということが周知されてない。アンケートを取るのであれば、アンケート項目に、『廃校に対して賛成か、反対か』というものを入れ、議論を進める方が良いと思う。

**【事務局】** 萩小学校の廃校を前提としていない。  
豊川市は複式編制を回避するという方針のため、それに従い、複式編制を回避するための4つの取り組みということで説明させていただいた。その中の1つに学校統合があり、今後そういう選択になれば、学校が廃校という可能性も十分あるが、廃校を前提としたアンケートではなく、あくまで4つの取り組みについてのアンケートである。アンケートの内容は昨年度に検討委員会で検討し、項目は決まっているため、今から内容を変更するのは難しいと思う。

**【参加者 C】** 子どもが少ないから複式になる。子どもを増やすために住民が住みやすい街を作ればよい。萩から車で大体10分から15分でイオンモールに行ける。10分から15分くらいで特急の停まる名鉄国府駅にも行ける。凄く住みやすく、立地条件の良いところである。子どもが減っている理由は、次の世代が住めない環境にあるから。市街化調整区域であるため新築や増改築ができず、家を建てたくても、土地があっても建てられない。

また、萩住宅跡地について、周辺の地域の人たちは、できれば住宅を作って欲しいという要望がある。しかし、市としては白紙状態で進んでいない。要望書は出しているが、市が動いてくれない。萩住宅跡地に50から60戸、若い人たちを対象にした家が建てば、子どもはすぐ増える。萩で土地を売り出したら、値段にもよるがすぐに売れる。本当に住みにくいところだったら、値段が安くても買わない。萩小学校複式編制回避への取り組みであるならば、せめてそういう宅地造成に対し、も

もう少し積極的に人が入れるようにして欲しい。また、萩の子どもたちが家を建てたいという時には、萩に家が建つよう、優先的に優遇して買えるようなことをして頂きたい。

**【事務局】** 子どもの数が増えれば複式編制にする必要もないので、この検討も不要となるが、このままで行った場合、令和10年度に複式編制になる見込みとなっている。人が増えて複式編制が回避になれば良いが、人が増えずに令和10年度を迎えてしまっは、打てる手が少なくなってしまう。そのため、今から検討を進めている。萩住宅跡地については、まだ一部住宅が残っており、今年度中に更地になる予定。その後は、市長のマニフェストで、『市営住宅地を始めとする市有地の宅地分譲』とうたっているとおりで、萩住宅も未活用地となった跡地を売却し、購入した業者が宅地分譲をしていく予定である。

**【参加者 D】** 政府の方でも、少子化対策を進めている（女性の働きやすさ、育休制度の充実、出産費用の補助、児童手当の所得制限撤廃）ところだが、子どもの数を増やすのに対してピントがずれているように思える。豊川市として少子化対策についてどのようなことを検討し、取り組んでいるのか聞きたい。

**【事務局】** 人口減少が想定よりも進みが早いという状況である。市長が「子育てするなら豊川市」を掲げており、それに対して職員一丸となって対応している状況である。我々は教育委員会の職員なので、直接施策を、ということはないが、『子ども健康部』や『福祉部』の方で様々な取り組みをやっている。例えば、『ファーストバースター（1歳になった時にお祝い金を配布する制度）』で、子どもの数を増やす政策を継続していく予定である。

**【参加者 E】** 資料に書かれている、複式編制をやらないと取り決めた理由を見ると、萩小学校では子どもたちの教育水準の維持ができておらず、また向上していないというように取れる。複式編制をしないと取り決めたメンバーは誰がいるのか。その中に萩地区の住民がいたのか。

**【事務局】** 複式編制を回避する取り組みは、平成31年3月に策定した「豊川市立小中学校の規模に関する基本方針」で決定した。メンバーは、愛知教育大学の副学長と愛知大

学の教授、国府高校の校長先生（学識経験者）、連区長会の代表（町内会）、小中学校PTA連絡協議会の会長、小中学校の校長会が推薦する校長先生。萩地区の方は入ってない。

**【参加者 E】** そのメンバーでは、萩小学校の良さを知っているとはとても思えない。そういった方が決めた方針に従って、地区住民に問いかけるのはナンセンスだ。

**〔事務局〕** 資料に書かれていることは、萩地区のことを指してメリット・デメリットと言っているわけではない。一般的なことを言っている。萩の状況を指して駄目だと言っているわけではないことを理解して欲しい。

**【参加者 E】** 私には、そう思えない。ある会議に出た時に、萩以外に住んでいる人から、「萩小学校はもう無くなりますよ」と言われた。その意味が最近になって分かってきた。小学校を無くすという話が一人歩きしている。とんでもない話。こんなことになるなら、萩地区は豊川市に合併しなければ良かったと、住民は思うはずである。また、1年前にパブリックコメントで、こういった情報を市民の方に流してくださいとお願いした。その時に、名前や住所、電話番号を全部入れたが、何の回答も無かった。何故回答が無いのか。回答をするために、名前や住所を書かせたのではないか。

**〔事務局〕** それは基本方針に関するパブリックコメントのことか。  
この方針とは別に、昨年度に豊川市の教育振興基本計画というのを出している。その時にした意見ということか。

**【参加者 E】** 広報にも載せてあった、昨年1月のことである。

**〔事務局〕** それについては、今回の説明の言っている方針とは別である。  
昨年度末、教育委員会で今後5年間の豊川市の教育方針を立てた基本計画があり、その基本計画に対してのパブリックコメントというのを昨年1月に行った。その時に質問したということだが、パブリックコメントは、質問に対し個別に回答する方法ではなく、ホームページ等で発表するという方法での意見募集している。そのため、誰に対しても個別回答はしていない。

**【参加者 E】** ホームページ等を活用して、市民にその計画推進を発信すると言っていたが、ホームページ以外のどういう方法でやったのかと聞いている。実際にはどういった方法で周知したのか。

**〔事務局〕** 必要があれば、学校や町内会を通じて形で回答するケースもある。

**【参加者 E】** それをやったのか。

**【事務局】** 補足させて頂く。

(今おっしゃっている) 昨年度の教育振興基本計画は、市全体の教育の振興計画のこと。学校教育だけでなく、生涯学習やスポーツを含めた全体の教育の中で、一部学校教育の中で小規模な学校に対する対策が必要であるということが、その方針の中に入っている。この基本計画を立てるときには、広く意見徴収するため、パブリックコメントを実施しているが、その意見に対しては、ホームページを通じて、結果等も公表している。また、各公共施設の窓口で冊子を配布し、市民から問い合わせがあれば説明もしますし、個々に対応している。

**【参加者 E】** 萩の住民に、十分知らされてなかったように思う。だから今、説明会を開催している。これは市の手落ちだと思う。約束と違う。情報を発信する方法として、ホームページ等と言っているが、本当に周知できる方法を考えて行ったのか。

**【事務局】** 周知の方法が不足していたというのは反省する。こういった機会を持ちながら、皆さんの意見徴収もさせて頂きたい。

**【参加者 F】** 複式編制を回避するための4つの取り組みの3番目の『学校選択制の導入』は、萩小学校を、他の地域から通学できる学校として特認校制にし、来たい人に来てもらうという話だと思うが、資料には、『入学希望者が僅かだったり、いないという事例があって成果が上げられない』や、『保護者の送迎が前提となる』ということが書かれている。例えば、近隣の小学校(平尾、八南、国府、御油)には、萩小学校に来たいという子どももいるかもしれないが、その場合に、保護者による送迎ではなく、市でスクールバスを用意したら、萩に来るという選択肢も、もう少し選びやすくなるのかと思う。もしくは、萩小学校の特色ではなく、萩小学校を選ぶことによって、市から何かメリット(特典)がある、となれば、学校選択制を導入して萩小学校に通う子どもが増えるかもしれない。市が、萩小学校に通うメリットに対する対策をとっていくことも有りなのかなと思う。

**【事務局】** 特認校制は、市内の子どもであれば、どこの地区からも特認校に通えるという制度になる。豊橋市は、(小規模校対策として)3校、特認校制を導入し、地区外から子どもを受け入れている学校がある。1つの学校については、10人くらい他地区から来ているが、あとの2校は1人2人という現状である。

親の送迎については、保護者にとって負担になるが、スクールバスを出すとなると、利用人数や回る順番、更に財政的にも困難である。また、萩小学校に通えば特典がある、という取り組みも、他地区から「何故その学校に通う子だけにそういうことが出来るのか」と不満の声が上がる可能もあり、なかなか難しいと思う。

特認校制をやって、子どもが集まれば複式編制回避となるが、集まらなければどうするのか、ということも含めて、今後も一緒に検討していきたい。

**【参加者 F】** スクールバスに関しては、市内どこかでもというわけではなく、近隣の地域だけ。近隣の地域（平尾や御油）であれば可能なのではないかとということである。スクールバスが無理と言うのであれば、学校統合を選んだ場合に、萩からスクールバスが出ないということになるのか。

**【事務局】** 国の基準（小学校は4キロ以内、中学校は6キロ以内）以下の距離であれば、（小学校については）基本は歩きだが、仮に萩地区の子が赤坂小学校に通うとなると、その距離を超える可能性がある。萩地区のほとんどの子どもが利用する状況になるのであれば、スクールバスは可能と思う。  
特認校に通うためのスクールバスを、近隣地区に絞った場合でも、何故その地区だけ、という意見が上がってくる可能性があるが、検討する余地はあると思う。

**【参加者 G】** 親の集まりの中で学校についての話をしているが、当時の小中学生の子が、廃校になるかもしれないと知っていたら、学校を潰したくないから地元で生活しようという意識は持ったと思う。廃校の可能性は、10年前、20年前でも分かったはず。今から突然子どもは増えない。市として、廃校になることが見抜けなかったのか。もっと早く市が言っていれば、今、学校に行っている子どもたちに、「何年後には学校が無くなっちゃうんだよ」と言ったら、少しでも地元に戻ってきて子育てしようという意識になっていたと思う。そういったことも、少子高齢化の対策には十分になる。

子どもたちの意見はどうなっているのか。今は小学生だってしっかりとした意見（学校が無くなったらどうするのか）は持っている。子どもたちの意見に一切触れていないが、それは調査するのか。

**【事務局】** 10年前、20年前の見通しが甘かったのは申し訳ない。少子高齢化は進んでいて、いずれはそうなるとは思っていたが、実際に初めて複式編制になる見込みとなったのは昨年度である。平成26年度の校舎耐震改修時に、保育園を含めた当時の保護者を対象にアンケートを実施したが、その時にも複式編制になる見込みでは、なかったため、具体的な検討はしなかった。平成31年の方針の中で、複式編制になる見込みになった時に、地元と一緒に検討していくというように定めたため、このタイミングで検討している。

また、子どもたちの意見については、一般向けと同じように、小学校5、6年生以上と中学生にもアンケートを実施する予定。（内容は異なっている）。そこで子ども

たちの意見も収集予定である。

**【参加者 H】** 説明があった（複式編制回避への取り組みの）4 つについて、現状で市としてどこを一番推し進めたい、または進めるべきではないかと考えているのか聞きたい。

**〔事務局〕** 2 番目の『学校区域を変更』については、大規模校と隣接している場合であれば、その学区の一部を萩小学校にすることも考えられるが、現状では、大きな学校も無いため、難しいと思う。それ以外は、現時点で決まっていない。今回のことは、市が一方的に決めることなく、地域の皆様と検討していくべきことである。そのためにアンケートを実施する。ただし、アンケートは投票ではなく検討材料のひとつであるため、アンケートで多数あった意見が決定というわけではない。

**【参加者 I】** 『萩小学校複式編制』という非常に分かりにくいタイトルなので、住民が、アンケートの統計をもって初めて廃校になるということが分かる、という感じがしている。（先ほど質問した）他の方が言うように、萩の市営住宅の跡地を早く分譲したら、この問題もすぐに解決すると思う。資料には対応策が4点あるが、2、3番は非常に難しく、1番についてはすぐできる。4番については、赤坂小学校と萩小学校の確認が必要だが、長坂小学校は最近50世帯の分譲をしているため、今後20から30年は複式学級にならないということが予想される。（複式編制が）予想されるのは萩小学校しかない。議員には、子どもの数を増やす努力をやって頂きたい。また、小規模校のデメリットというのは、教師一人ひとりのやる気の問題である。やる気が、デメリットではなく、全部メリットになる。若い先生ばかりだから駄目だとか、年寄りばかりだから駄目だとか言うのではなく、教師一人ひとりのやる気次第である。そのやる気を引き出すために、子どもたちが伸び伸びと育ち、地域で盛り上げていく必要がある。そうしなければ、子どもたちも地域で成長しないし、先生たちも更にパワーアップしていこうという気概がなくなる。アンケートには、やはり『萩小学校の廃校に賛成か反対か』という項目を第一に挙げるべきで、24日の説明会の後に、また検討委員会をもう一回開き、アンケートの項目を検討して頂きたい。

**〔事務局〕** 委員長から「協議する」とのこと。



**【参加者 J】** 知り合いで、子どもが4人くらいいる人がいる。私たちが住んでいる環境を、非常に素晴らしい環境だと褒めてくれる。

萩は高齢者の割合が非常に高く、単身高齢世帯も増えてきた。10年くらい経つと、空き家が非常に多くなって人口も減るのではないかと、心配している。

私たちの環境を非常に良いと言ってくれる人は、できれば引っ越してきたいくらいだと言っているが、萩には家を建てられるところがどこにあるのか、どんな空き家があるのか、そういった情報が世間に伝わっていないので、具体的に行動を起こすことが難しいと思う。空き家になってしまうような住宅や土地を知らせて、引っ越したい人に知らせる（不動産屋みたいな仲介ができる）ような、手段やツールが必要である。高齢化対策や人口を増やすような対策を含めた全体の対策を考えないと、（どこの地域でもそうだと思うが、）人口は減り、子どもの数はもっと減っていく。学校を統廃合する問題は、このままでは他の地区も続いていくと思う。

萩は、スーパーやイオンモールにも10分、15分で行けるし、名鉄の駅も近いため、名古屋に通勤する場合でも1時間くらいで行ける。非常に便利でメリットの多い土地だろうと思うが、規制が多く、住宅などはすぐに建てられない。既存の物を活かしていく必要があるが、具体策が今のところないし、一般の人に伝わっていない。地域で人口を増やし、子どもを増やすということになると、萩地区全体の長期的な対策が必要だと思う。そういったことを理解して、新しい施策を立てるか、あるいは住みたい人が住むことが出来れば、子どもの数はそれほど時間がかからずに増えてくると想像がつく。そのために、「こういうところがありますよ」「こうすれば家が建ちますよ」と、住みたいという人が具体的に行動に移すためのイメージを描けるようにして欲しい。情報を発信し、住みたい人に来てもらうためにそれを仲介するような役割がいると思う。下水道を含め、色んな施設も整備が出来ている。そういう資産、財産を上手く活かしていくためにも、総合的な視点でやっていただけると有難い。

**【参加者 C】**（今の話の中で）住む場所が周知されていないということだが、萩住宅の跡地分譲を是非進めていただきたい。近くの不動産屋に言えば、良い住宅であればどんどん売れる。それは確かだと思う。

一番のデメリットは、萩が市街化調整区域に入っているということである。これを解除すれば、萩にはどんどん住宅が増えてくると思う。また、農業振興地域制度の特例を設けて、農地を持っている人の子どもたちが住みやすい家を作りやすくするようにして欲しい。そういうことをやれば、萩は良いところなので、住宅はどんどん増えると思う。

最後に一言。岡崎市を調べたが、児童数60人以下の小学校が8校あった。（萩の近

くの) 宮崎小学校は16人、夏山小学校は13人の児童が通っているが、まだ廃校になっていない。是非、伝統のある萩小を廃校せずに存続できるよう、こうすると人口が増える、子どもが増えるという前向きなアンケートを取っていただきたい。

**【事務局】** ありがとうございます。

**【参加者 K】** 今回初めて説明を聞いた。複式は避けるというのが、豊川市の決定事項と理解した。人数の分布を見れば令和10年度にはこういう状況になることが予想されるが、これから小学校に子どもを通わせる者としては、今後の萩小について、いつまでに、どうやって決まるのかが気になる。決め方やスケジュールというのは決まっているのか。

**【事務局】** 来月アンケートを取り、その結果を踏まえ、今年度中にある程度の方向性を出したいと思っている。その後、来年(令和6年度)くらいで計画(条例や規則の改正、現場との調整、人員募集の方法等)を立てていきたい。  
5年度にある程度方向性を出し、6年度に具体的な計画を立て、7年~9年に準備をし、見込まれている10年を迎えるスケジュールを考えているが、今後の子どもの数や、決まった方向性によってはこのスケジュールが変わってくる可能性がある。

**【参加者 K】** 令和6年度には決まらないと言うことか。

**【事務局】** 例えば、複式編制にはならないけれども、毎年4人や5人という状況をどうにかしなければいけないという意見が出た時には、10年度待たずに何か手立てを打つことが出来ないか、という声も出てくると思う。

**【参加者 L】** 小学校の時に、複式学級を経験している。当時は自分の学年が3人、その次の学年が2人の5人で1クラスだった。教室の前後に黒板があり、学年ごとに黒板を使い分けながら先生が授業をしていた(例えば、前の黒板で1年生の授業を15分やったら、後ろの黒板で2年生の授業を15分やる)。先生の反応も薄く、授業中の言葉選びにも苦勞していたように思う。そのため、正直に言って複式学級というのは望ましくないが、現状このままだとそうになってしまうのかもしれない。

**【参加者 M】** (参加者 L の発言に) 補足させて頂く。

参加者 L はそのように複式学級で授業をやってきたが、やはりわかりにくかったと言っている。経験した者としては、自分の子にはそういう授業編成（複式編制）はして欲しくないという思いがある。この会の題名のとおり、回避するという方法を、頑張っ て進めて欲しい。

**【事務局】** ありがとうございます。

**【参加者 N】** やはり要望書も出しているのに、市の方の回答がないということが、これにぶち当たっていると思う。ホームページに書いてあると言ったが、保護者はそんなことは聞かされてもない。全然周知されていない。今後はこれをこういう会（説明会）を開催し、住民を集めて進めて欲しい。（『豊川市立小中学校の規模に関する基本方針』を決める）委員会に萩の人が誰も入っていないのに、決まってしまった。住民が何もわかっていない状態で、今日の説明会を聞いて文面を見ると、「廃校するのかな」という第一印象を受ける。であれば、アンケートの中に、「萩小学校が廃校になる、反対・賛成」といった簡潔な文章で説明して欲しい。廃校と書けば、保護者の方も、「今、そういう危機になる。もうそこまで追い込まれているのか」と感じると思う。

分譲の要請も出しているという話だが、市は全然回答を返していない。長沢小学校区に 50 戸の家が建つという話がある。その情報があったから、長沢小学校は複式編制を回避した。萩の先輩方が頑張っ てやっていることへの回答もなし。現状は、私たちの納得いかない方向で進んでいると思う。住民の意見、保護者の意見を拾い上げて、市に持って行って頂きたい。

保護者の皆さんには分かりにくいと思うが、学校が廃校になるってことは、道路の整備も、なかなかしてもらえず、地域が廃れてしまうということ。町内会長は 24 日の説明会でも言って頂きたい。小学校が無くなると、萩は廃れていくということ。住民の皆さんはそこまでは感じてないかもしれないが、そういう（廃れていく）ことだと思う。萩を活性するためには小学校を無くさない。分譲地があるなら、そこに家を建てて頑張っ て子どもの数を増やそうという、萩の一致団結した言葉を、市の方も受け入れ、回答をお願いしたい。

26 年度にアンケートを取った時に、大体の統計は出ているはず。長沢地区はそれをもとに動き、保育園も出来た。萩の意見は受け取ってもらえなかったのか。上層部で何かこそこそやっているのか分からないが、今回の説明会に関しても、市は取り合ってくれず、住民の願いがあっ て、やっとこういう会が開けた。市はもっと周知すべき。今日の説明会についても、内容や意見を回覧板に入れるなりして周知して欲しい。（お年寄りがパソコンを開いて確認するのは無理なので）ちゃんと紙回

覧で、しっかりやって頂きたい。

最後に、『みつば』（学校紙）の文面を読ませてもらう。毎年6年生が、自分の育った萩町の魅力をもっとアピールして、この町の良さを知ってもらいたい、他の地域から訪れる人を増やすアイデアとして自分はこれを提案します、というプレゼンテーションを行っている。素晴らしい。市には行き届いていないかもしれないが、子どもたちは頑張っている。市の方にも是非見て頂きたい。子どもたちも頑張っている。先輩方も萩地区の皆さんも頑張っている。萩町を活性化させていくため、萩住宅の用地があると言っているのだから、そちらを複式になる前に進めて欲しい。複式になってしまうかもしれないが、（複式にして）モデル校としてやってみてはどうか。その間に分譲し、人口を増やす。萩地区をなくさない方向を是非、前向きに進めて頂きたい。そのためにも議員さんの方にはお力を貸して頂きたい。

**[事務局]** 今度も検討委員会を中心に、地域の皆様と考えていこうと思う。できる限り情報発信はしていく。よろしくお願いいたします。

#### (4) - 2 質疑応答 (4月24日)

**【参加者 a】** 複式にする基準というのは、愛知県の決まりなのか。守らなければいけない、愛知県の法律みたいなものなのか。少子化で、子どもの数が減っている。基準も少子化に合わせて、数値を変えていった方が良いのではないか。(基準を変えないと) どんどん複式になっていく一方だと思う。先生の数に影響するのか。

**[事務局]** 愛知県で定めている、続いている2つの学年が14人以下になった場合は複式編制とするという基準がある。それに基づくもの。

1クラスの定員も、令和5年度からは小学5年生が1クラス35人以下となり、来年度は6年生も35人学級になる。(1クラスの)定員が減っているため、県の基準も今後変わってくる可能性はある。変わらない限りは県の基準に従う。

**【参加者 b】** (今回の説明会では) 結果がこうだからこうしよう、という話しか出てない。教育委員会の方で、他の部署と検討して、人口が増えるような施策を考えると、県に対して基準の見直しについて提案して欲しい。結果がこうだからこうだという考え方ではなく、教育委員会の方で、もっと積極的に(人口を増やす施策を)発信することだってあり得る。しっかりと手立てをうつという考えにならないのか。

**[事務局]** 教育委員会でも、ただ指をくわえて何もしなかったというわけではない。人口が増えれば、こういう問題はなくなる。市長も萩住宅の跡地を分譲するというマニフェストもある。人口が本当に増えれば、複式編制も回避できると思う。建築課と教育委員会で連携をしながら、人口増加に結び付けていきたいと考えている。

**【参加者 c】** (萩住宅の跡地分譲について) 萩住宅を整備したら、子どもが増えるという可能性がある。早めに分譲することが、萩小を存続させることに繋がるのではないか。学校が無くなるということは、地域が廃れるということに繋がる。学校が無くなり地域が繁栄するという事例は、ほとんど見たことない。前回の説明会で教育委員会は「増えればもうこんな会いらぬ」と発言していた。ほんとにそのとおり。令和5年度に全部整備できる(更地になる)のであれば、令和6年度から売り出す(分譲する)ことは出来ないのか。

**【事務局】** まだ解体が2棟か3棟残っているが、それが終われば正式に分譲できると思うが、市が分譲住宅を作るわけではない。民間に売り、民間が住宅開発するという形になると思う。

**【参加者 c】** 萩は凄く良いところで、住みたいって人が多い。ただ、家が建てられず、お店を出すことが難しいので長沢（地区）に建てたということも聞いている。本当は萩に建てたかったという人がいる。萩に入りたい人がいるのに入れないというのは、僕の中で矛盾を感じる。だから、まずは跡地の分譲を進めるのが、一番大事かと思う。自分の子どもが、将来的に自信をもって萩に住んでもらうために、そういうところを進めることが大事だと思う。未来の子どもたちのために、一緒に考えて欲しい。

**【事務局】** 萩だけではなく、市内の旧町営住宅跡地については、積極的に分譲していくと市長も言っている。萩住宅も当然分譲はしていく。分譲した結果、若い世帯が住み、(子どもが増えて)萩小学校が複式にならず、こんな議論なんてする必要なくなると、それが嬉しいが、なかなか約束はできない。

**【参加者 c】** 本当に萩小の子たちは性格も良く、良い子達ばかりなので、そういう子たちの未来をなくすというのは親としても悲しい。子どもたちの未来を考えていく上で、是非分譲地を早め(令和6年度)に売り出すくらいの勢いでやって欲しい。子どもたちが悲しまなくてすむ。子どものためにという点は市も我々も一緒。

**【参加者 d】** 関連して発言する。検討委員会でも説明会でも、萩住宅を整備して欲しいという話が何度も出ているが、文章としてはどこにも載っていないし、明記されていない。教育委員会が住宅関係は管轄外だと以前から言っているのは分かるが、市からの提案ではなくて、こういう説明会や話し合いの中で、住民から出た話という位置づけで、今後説明会や資料を配布する場面があったら、今出ている4つの案に加えて、選択肢として、「萩住宅の整備」を、どこか文章に入れれば、情報提供という意味で、住民に知ってもらえると思う。こういう会(説明会)に出ない人はとても多いと思う。そういう方法(萩住宅の整備)もあるということすら、耳に出来ないと思う。

もう一つ、前回と今回の説明会の参加人数を見ると、説明会に来ていない人が多い。そういう状況でアンケート配布されても、分からない部分があると思うので、アンケート配布の際には、アンケートとは別に、資料を配布するのが親切かなと思う。アンケート項目には、4つの取り組み(「統合」「通学区域の見直し」「学校選択制」「小中一貫」と、「住宅の整備」という5つめの案の中から○をつける質問が予定されていると思うが、4つの取り組みについての資料しかない。5つめの選択肢(「住宅の整備」)についても、同じようなボリュームの資料をつけて配布するのがフェアだと思う。先ほど言った(萩住宅の跡地の整備計画についての)説明を乗せ

て頂きたい。この2点（アンケート配布時の資料同封、住宅分譲計画についての資料追加配布）を検討委員会で協議するならば、前向きに検討し、もし承認されなかった場合は納得できるような理由を添えて教えて頂きたい。

**【参加者 e】** 前回の説明会に出ていない人のために補足する。私は、教育委員会に喧嘩売りに来たわけではない。萩の住宅、萩の住民を増やして、萩小学校を存続したい、そういう思いで参加している。

参加者Cからは、萩は非常に過疎地域だとか限界集落だとかいうようなことを言われているが、国府駅に10分、イオンモールに15分くらいでいける非常に住みよいところだ、という発言があった。名古屋の通勤圏内であり、国府駅に出れば特急も止まる。私も名古屋に行ったことがある。（名古屋に）通勤も可能な、住みよいところである。萩住宅の跡地を早急に分譲していただければ有難い。

参加者Jからは、空き家がかなりあるのではないか、だから空き家を大家の了解のもとに、貸したり売ったりして若い人に住んでもらうのはどうか、という発言があった。実際に、上萩の方で2人ほど空き家に入った。高齢者世帯だが、子どもも孫もいるため、萩の住宅跡地を分譲すれば、多分すぐ買うはず。

参加者Fからは、3番目案（「特認校制」）で、近隣（御油、国府、八幡、平尾）から萩小の方に来たいという希望があった時は保護者の送迎が必要とあるが、教育委員会で、スクールバスやコミュニティバスを使っての登下校をなんとかして欲しいという意見があったが、それについて教育委員会からは「できない」という回答があった。スクールバスについては、検討して欲しい。

参加者Eからは、教育委員会から、質問に対しての回答がなかったという意見があった。今回、萩小学校が廃校になるのは何故なのかという疑問が出たら、どこの誰が回答するのか（担当部署）を広報で説明した方が良い。

私からは、アンケート項目の最初に『萩小学校を廃校にする。反対か、賛成か』という項目を設けた方が良いと提案した。先ほども色々な問題が出たので、もう一度検討委員会を開き、アンケートの内容を検討すべき。説明会の資料にも、アンケートの項目はこうだと示しておけば、説明会に来た人だけでも質問内容が分かる。それを見ながらの方が、「これはどういうことだ」という意見が出しやすいのではないかと。住民はまだ、何故このアンケートをやるのかよく分かっていないと思う。以前のアンケート（平成26年度実施）では、突然『萩小学校を赤坂小学校区に統合する』という文言が出てきた。アンケートの結果は、3名のみ賛成で、あとは全員統合に反対だったと、当時の人から聞いている。

『萩小学校を廃校することに賛成か反対か』という項目を設けるとともに、検討委員会をもう一度開き、アンケートをもう一度吟味し、それから説明会を2回くらい

やって頂きたい。この時期は、農家だと日中は畑仕事でやる事が多く、大規模農家だと疲れて会議に出てくる事は出来ない。また、小学生や保育園児を持つ保護者は（前回の4月15日だと特に）新年度が始まって何かと忙しい。説明会に大勢参加してくれる事を期待したが、実際は50名超だった。保護者の方が非常に少なかった。今回のことに一番関係する保護者の方が出やすい時期（4月、9月は避け、6、7、10月頃）を選んでやって頂きたい。

私も検討委員会に出ているので強く言えないが、萩小学校の今後についての方針を来年3月に決定するという予定表が出ているので、もう完全に複式ありきというのが考えられるが、そうではなく、人数が増えれば何とかなるというような、希望を持った検討委員会、アンケートの内容であって欲しいと思う。

**【事務局】** 検討委員会で、令和5年度に入ってからすぐにアンケート実施すると決定している。時期をずらすのは難しい。項目についても、検討委員会で検討した内容、項目であるため、今から変更するのは難しいのではないかと、事務局は考えている。

教育委員会も、萩小学校を廃校にしたいと思っているわけではない。子どもの数さえ増えれば複式編制にする必要もないため、このままという選択肢もあると思う。萩住宅跡地分譲を始めとした、様々な政策を進めた結果、人が増えればそれが一番良いが、増えなかった場合を考えて、検討を進めている。今後検討を進めていく中で、人が増え、複式編制が必要なくなれば、それはひとつの結果になる。ただ、その一方で、複式編制にならなくても、子どもの人数が少ないと言うのは、ひとつの状況であり、複式編制にならなくても、もう少し大人数の中で学びたいという子どもがいる、またはそういうところで学ばせたいという保護者の方がいるかもしれない。だから、アンケートを実施し、意見を聞きたい。前回も言ったが、アンケートは投票ではないので、アンケート結果をもって、それに決定をするというわけではない。今後の検討材料のひとつであり、色んな意見を踏まえて検討を進めていきたい。

アンケートを再検討という話であるが、5月の1か月間で調査し、7月末から8月上旬にはアンケートの集計を出したいと思っている。その結果をひとつの判断材料として検討委員会で検討していく。宅地分譲を増やすことは、それはそれで進めていく。

**【参加者 e】** それはちょっとおかしい。アンケート内容を知らない人がたくさんいる。アンケート内容を、まず、回覧などで告知して欲しい。

**【委員長】** アンケート実施の際には、アンケートの趣旨をちゃんと入れる。検討委員会のメンバーで、こういうアンケートをやろうと考えた結果である。

**【参加者 f】** 説明会で初めて検討委員会のメンバーや会長が誰なのかを知った。住民はもちろん、学校のことなのに、保護者が何も知らないうちに検討委員会のメンバーの選出が決



まって、委員会が進んでいて、全て事後報告なのは、住民も納得いかない。町民の声もしっかり聴いて進めると言うのなら、委員会のメンバーや会長の選出は、町民に意見を聞いたのか。

**【副委員長】** 検討委員会の「萩小学校の複式編制のスケジュールの案」というのがある。(3月2日作成)。それによると、説明会をやりましょうという話がある。だから、4月15日と本日に実施した。アンケートは今月末から実施し、集計して7月にアンケートの結果踏まえて検討委員会で検討しようというスケジュール案がでていいる。アンケート案を示せと言われても、アンケートはまだ決定していない。案は決定したが、案の段階で全員に周知するなんてことは出来ない。それこそおかしいのではないか。

**【参加者 f】** そもそも検討委員会のメンバーがおかしい。(情報を公開せずに) コソコソやるから住民が怒って、今こうして意見を言っている。検討委員会で勝手に事が進んで、事後報告されて、説明会開いてくださいと言うまで、やらないのはおかしい。

**【副委員長】** そうするのはちゃんと報告しているし、周知もしている。

**【参加者 f】** 周知の仕方が、市民館の通知では分からない。周知が足りない。前回の説明会で初めて聞いた保護者は何のことか分からない。アンケートについても、一回説明を聞いただけでは意味が分からない。周知もされていない。そんな状態では答えられない。  
委員長は何故検討委員会の会長に選ばれたのか。市はどうやって決めたのか。

**【事務局】** まず、学校運営協議会に状況説明をした(令和3年2月)。その時に学校運営協議会から、町内会を中心に検討委員会を立ち上げ進めて欲しいと言われたため、萩町内会と相談し、令和4年7月に町内会の主だった団体の代表に集まってもらい、そこで検討委員会を立ち上げたいという説明をした。検討委員メンバーについては町内会に一任し、選出をお願いした。

**【参加者 f】** そこだけでは納得いかない。特に会長は、学校が無くなるかどうか取りまとめる重要な役割だが、一部の意見で決まったのはおかしい。  
検討委員会のメンバーに保護者やクラス委員の枠を増やして欲しい。強制的でなく任意で来られる人だけで良い。保護者の意見は設置した意見箱(PTA会長が取りまとめ)に、と言われると思うが、そうではなく、検討するその場に一番関係する保護者の枠があるのは当然のこと。  
委員会メンバーの選出について、事前に聞かれていないから、今のメンバーに決まった。後からの意見は受け付けないというのは納得がいかない。PTA会長、保育園、さくらんぼと保護者枠があるが、その以外に、地域住民が意見できる席を設けて欲しい。

**【事務局】** 検討委員のメンバーを増やすことについては、検討委員会で議題に上がったが、このままで行くことに決まった。

**【参加者 f】** このままで行くのが、おかしいから増やして欲しいと言っている。納得がいかない。検討委員会メンバーの中には意見言えない性格の人もある。納得がいかない。

**【委員長】** 前回の検討委員会でこのメンバーでやっていくと決まった。前回言ったとおりである。

**【参加者 d】** 「検討委員会で決まった。ちゃんと話し合った」というのはそのとおりだが、そもそもの検討委員の存在が周知、説明されていない。私は検討委員会に出ているので話の流れが分かるが、実際保護者からは、「何故〇〇さんがあそこにいるのか?」「検討委員会とは何か?」「検討委員会のメンバーは誰がいるのか?」「会長さんはどういう人なのか?」と聞かれることが多い。それくらい保護者に周知されていない。去年の夏に説明会があり、そこで検討委員会よりも多いメンバーがそこに来て、そこで検討委員会のメンバーが決まった。検討委員会のメンバーを決めるための人数があれだけの人数だった。

**【委員長】** 町民全体に言って、メンバーを選べということか。

**【参加者 d】** そもそも、今後の学校のことを決める検討委員会であれば、もちろん町民の方全員に関わってくる問題ではあるが、これからその学校に通わせる保護者（一番関わってくるのはさくらんぼにいる保護者）の「検討委員会って何なの」という疑問を無視するのはおかしい。

私も昨年7月の説明会に、突然手紙が来た。平成26年度のアンケートの件や昔からの人口の流れのことはよく分からない。その状態で手紙がきて、突然「来てください」と言われた。

最初の説明会では、『複式を回避するための取り組み』というタイトルだったので、『統合』が『廃校』に結びつかず、複式を回避しながら萩小を残す方向で考えられる説明会なのかなと思っていた。だから、検討委員会に加われることをとても嬉しいと思って参加していたが、そうではないということを知った。このままでは統合になってしまうということを知った。保護者の中では、その段階で「統合になるんだよね」という意見が多かった。今は変わってきたかもしれないが。

委員長は、「いつも検討委員会で決まった」や「普通そんな委員会のやり方はない」と言うが、何故そこが基準になるかよくわからない。クラス委員や保育園の保護者を検討委員のメンバーに入れるということは、その保護者の負担になるし、そういう場に出ていくのが苦手な方もいる。PTAの仕事を負担軽減しようという動きがある中で、検討委員会の出席という仕事が入るのは、とても荷の重いことだと思

う。その意見は私にもよく分かる。だから、自由席を設け、来たい人が来て、不安に思っていることをその場で聞き、意見できるようにして欲しいと言ったが、委員長はそんなことは出来ないと言われた。皆が不安に思っていることや聞きたいことを言われたら收拾がつかなくなるし、拍手も、手を上げるのもいけない、と言われた。別の委員が、「発言できないならば、委員にメモをその場で手渡して、(発言権のある)委員に代理で発言してもらうくらいは良いのではないか?」と提案したが、それも拒否された。その姿勢がとても気になる。委員長が、検討委員会について、色々忙しく動いていることはとても感謝しているが、やはりそういう言われ方をされると、とても不信感を覚える。もう少し保護者や未就学児の保護者の声を聞く姿勢をもって欲しい。

**【参加者 g】** (萩小学校の現状についての) 話は聞いてない。今回の資料には、『複式回避』と書いてあり、どこにも『廃校』とは書かれていない。今、ここに来て初めて知った。資料に書かれている『複式編制を回避するための4つの取り組み』の全部に、「検討が必要」「選択が難しい」と書かれている。全部駄目と言うように聞こえる。「課題が多い」、「思ったような成果が上げられないかも」と書かれていると、4つ全て駄目なのではないか、という気がしてしまう。この資料を見ただけだと、統合廃校という方向に聞こえると思う。

**【副委員長】** 検討委員会で検討したアンケートの中に、『複式学級を回避する取り組みとして、どのような方法が良いと思いますか』という項目があり、選択肢として、4つの取り組みと、『分譲住宅・萩住宅跡地等を整備する』という項目もある。さらにその他という項目も設けている。そこで皆の意見を聞きたい。アンケート内容を載せていないのは申し訳ないと思うが、案の段階で示せないというのは先ほど言ったとおり。アンケート項目については、検討委員会で十分検討した内容になっている。追加した方が良いという意見により追加した項目もある。回避する取り組みというのは、4つだけではなく、先ほどから言われている『萩住宅地を分譲し、人口を増やす』という案も入っている。前回の時に出た、「空き家を活用してはどうか」という意見などをアンケートに書いてもらえれば、(アンケート集計したときに) こういう意見がある、こういう意見が多いから検討しなければいけない、どう動いていこう、ということを検討委員会で検討していく。そのために、皆の意見を聞こうというのが、このアンケートの趣旨である。検討委員会ではメンバーの意見を聞きながら、できる限り住民に情報発信を一生懸命やっている。今回も、説明会開催に当たっては、小学生や園児にも案内を渡し、保護者に行くように伝えて欲しいとお願いした。

逆に、情報発信や周知を一生懸命行ったにも関わらず、私個人の意見としては、説明会の参加人数が少なく、皆関心がないのかと不安になった。萩小学校の行く末、今後の萩のコミュニティとしての大事な萩小学校を今後どうしていきたいのか、その説明会なので、もっとたくさん来てくれるのではないかと思っていた。たくさん来てくれると思っていたので前回は体育館で行ったが、意外に集まりが悪く不安に思った。

**【参加者 f】** (集まりが悪かったのは) タイトルが分かりにくいからだと思う。あれを読んだだけでは何の意味もない。情報発信されていない中での通知だった。『廃校にして統合にする』というようなはっきりした文面でないと、住民には伝わらないと思う。これは遠回しのようにしか聞こえない。もうちょっとはっきりした分かりやすいタイトルをつけるべき。

**【副委員長】** (廃校が決まっているわけではないので) はっきりと書けない。廃校が良いかなんてことは書けない。

**【参加者 e】** 前回の説明会に来た人は、質問がありますかと聞かれても、何を質問していいのかが分からないという人が結構多かったように思う。教育委員会が言うように、アンケートは投票ではない(多数決ではない)と言われてしまうと、4つの案ではなく第5案が賛成という意見がたくさん出てきた時に、検討委員会の中で「頭の中に入れておく」だけで終わってしまいそうな気がする。それが怖い。

**【参加者 h】** 今、『廃校』という言葉が出ているが、委員長が言われるように、廃校の話は何もないのではないかと。令和10年に複式になるが、それをどうしようという話なので、私は別に先走ってその先を言うことはないと思う。(委員会の)構成メンバーを見ても、(各団体の)代表で構成されている。そこで保護者は積極的に意見を言えるのではないかと。検討委員会のメンバーの数だけが増えればいいというものではないと思う。それぞれの代表が出ているので、構成員はそんなに偏ってはないと思う。

**【参加者 i】** 4月15日の説明会に初めて参加した。今までの流れは分からず、分譲地があるということもそこで初めて知った。確かに自分の子どもがその世代だったらどうかなってというのは正直考えたと思うので、「複式になった時に考えるのは遅いから今から前倒しで考える」というのは分かる。

『複式を回避するためのアンケート、取り組み』と言われた時、人数を増やすための取り組みについて話を聞けるのかと思い前回の説明会に参加した。実際は、人数を増やすための施策は何も今は動いておらず、萩の住民から「こういう風にしたら良いのでは」と言っているところで止まっていると感じた。

愛知県では複式編制を禁止しているわけではなく、豊川市はやらないという話。豊川市が複式編制をやらない理由が建物の老朽化等の外的要因でなく、人数だけの問題だけならば、萩住宅跡地を分譲すれば人数が増える見込みがあるので、猶予期間を設け、特別措置でその期間だけ複式をする、ということは出来ないのか。

よくテレビで見かける複式編制の学校は、最後の卒業生が2人、学校で5人しかいないとかそういうイメージ。それと比べると、萩はまだ今の段階で50人、令和10年の時に約40人で、たくさん児童がいる。住宅が増え、子どもが増え、全校で一桁になるわけでないのならば、特別措置案の検討を選択肢に入れて頂きたい。

音羽地区はすごい通学区域が広い区域だと思う。区域によっては音羽中学校までは6キロ超、赤坂小学校までも5キロくらいになる。他地区の小学校の校区の区域を見ると、5キロだといくつかの小学校を跨ぐことが出来る。赤坂小学校の人数が少ないから、地区を広げて萩に来るのは現実的じゃないと言われたが、(やれという話ではないが)、例えば、赤坂台を萩に入れ、御油を赤坂に入れ、というように、人数を均等化する案もあるのではないか。現実的に考えて、住んでいる人達が「困る、無理」という話だと思うので、やって欲しい、その選択肢がないのはおかしい、という話ではないが、萩の子たちからすると、もし赤坂小に行かなければならなかった時、萩の子は我慢して赤坂に行かなきゃいけないのに、赤坂とか御油の子が区域変わるのは無理、というのは、萩の子たちの扱いが他の地区と違うのではないか、と思う。

萩の人口を増やすための取り組みのスタートが遅くなったから、その令和10年度の平成30年度生まれの子が当たる時には、一旦特別措置とする、というのを検討して欲しい。複式をやらない理由が、豊川市の中で教育機関の均等化が取れないというのならば、野外活動や修学旅行といったものは他地区と合同でやり、人数が多い中での経験もしつつ、というのも入れるのもひとつなのかなと思う。

私の中で検討委員会のイメージとしては、複式編制を回避するために人数を増やす活動をしていて、それについての話が聞けると思っていた。ちょっと違ったなという個人的な意見である。

**【参加者 j】** パブリックコメントの中に、「児童が増える施策を考えて下さい」という意見があった。それに対する市の回答が、「問題解決に向けて対応を進めていく」とあった。今、何をやっているのか、ということをもとに尋ねたい。

複式編制を回避する4つの取り組みはどれも難しい。簡単にいかないものばかり書いてある。こんなものを書いてもしようがない。それよりも、萩の人口を増やすことを考えた方がよい。萩住宅跡地があるので、市はもっと進めなければいけないと思う。教育委員会だけの問題ではない。

もう一つ、『廃校』という言葉も、教育委員会は言わないようにしていると思う。平成26年の実施したアンケート時に、教育委員会は大失敗した。いきなりアンケートに『廃校』という言葉を使ったから、萩住民が非常に怒った。そのため、教育委員会内の申し送りで、絶対に『廃校』という言葉を使ってはいけないと言われていたのかな、と私は思う。

しかし、今回のこの表現は誰が見ても分かりにくい。『複式編制回避』＝『廃校』と言いたいのだろうが、『廃校』を言う言葉を使いたくないから難しい表現にするのは特に多い行政のやり方。分かりにくい言葉を使い、有耶無耶にして事を進めようということが現実にある。今回の教育委員会がそうだと、思いたくないが、この表現は本当に不親切。

前回の説明会で、私は情報発信について、ホームページ以外でどういうことをやるのかと尋ねた。豊川の広報や冊子等の作成と、書面にも書いてあったが、冊子は作成したのか。見たことがない。「町内会を通じて広く市民に情報を発信します」と、市の回答がしてあるのにも関わらず、それが十分なされてないから、今日のようなこんな意見が出ていると思う。私が一番危惧していたこと。絶対これは守って欲しいと言ったら、(市からは) こういうこと(情報開示の方法)をやりますと回答があったが、本当に実行しているのか疑いたくなる。

4つの案よりも、とにかく萩の子どもたちの数を増やす方法について、市ももっと動くべき。萩住宅跡地も令和6年度ではなく、すぐにやるべき。もう誰も住んでいない。解体についても、一度に壊さず少しずつやっているから、萩小学校の児童が通学する時に非常に危険である。住宅解体工事のたびに、通学路を変更している。

子どもたちのためと言いながら、子どもたちのためになっていない。真剣に考えて欲しい。子どもたちのためというなら、貴方たちのためではなく、本当に子どもたちのためにやって欲しい。子どものために動かない教育委員会はいらない。

萩小学校が無くなって一番困るのは、高齢者。萩区は豊川市内で高齢化率が一番高く、お年寄りが多い。子どもたちが登下校で歩いてくる姿を見て、元気づけられ、頑張っている高齢者がいっぱいいる。そういう意味でも、萩小学校を廃校なんて絶対にしてはいけない。人口増やす方法を早く考えて欲しい。私たちの管轄じゃない、ではなく、もっと他部署へブッシュして欲しい。

**【事務局】** (複式編制回避という言葉が) 分かりにくいという指摘もいただいた。できる限り情報発信をしていかないといけないなと思っている。廃萩小学校の廃校が決まったわけではないので、人が増えれば一番良いと思う。

ただ、複式編制にならなくても、子どもの人数が少ないっていうのは確かであり、もう少し大きい学校で学びたい、学ばせたいという意見もあるかもしれない。何度も言うように、アンケートの結果が方針決定というわけではない。説明会に参加し、思いを伝えられる方ばかりではなく、都合で来られない人や、他と違う意見を持っている人もいると思う。アンケートを通じてそういう意見を伺いと思っているので、理解いただきたい。

**【参加者 e】** もう検討委員会をやらないのであれば、『萩住宅跡地分譲』についての資料を資料追加してアンケートを配布して欲しい。1番から4番のどれも選択できない時に5番目を選ぶことになるが、5番目の資料がないと5番目の選択は「何のこと？」となる恐れが多い。

**【事務局】** (5番目案の資料追加については) 一度検討させて頂く。

以上